



1



2

福音がローマへ

- パウロは、まる二年間、自費で借りた家に住み、訪ねて来る人たちをみな迎えて、少しもはばかりことなく、また妨げられることもなく、神の国を宣べ伝え、主イエス・キリストのことを教えた。使徒28:30-31
- しかし、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります。使徒1:8

3

パウロ？

- パウロは、教会の敵、最も恐ろしい迫害者だった
- クリスチャンを捕まえようとして遠征中、イエス様に捕まえられた。使徒9:1-22
- 教会を滅ぼそうとしていた者が、教会を建て上げる者となった。
- 私はその罪人のかしらす。しかし、私はあわれみを受けました。それは、キリスト・イエスがこの上ない寛容をまず私に示し、私を、ご自分を信じて永遠のいのちを得ることになる人々の先例にするためでした。1テモテ1:15-16

4

どのようにローマに行った？

- カイザリヤからローマへ2000キロ以上の旅
- ローマ帝国の国費で、親衛隊百人隊長(ユリアス)が率いるローマ兵の護衛(ボディガード)付きで、ローマに入った。
- 比較。モーセの生い立ち、ナイル川からの救出、実の母が、乳母(うば)としてパロの娘に雇われた。王宮で「王子」として育てられた。
- 神の余裕とユーモア。

5

思いもよらぬ方法で

- 人生は思うようにいかないことが多い。
- 大切なことは自分の思うようにいくことではなく、神のみこころがなされること。マタイ26:42、6:10
- 神は私たちの願いや夢をかなえるために存在するのではない。
- 私たちは神の夢、計画のために存在する。
- 世と、世の欲は過ぎ去ります。しかし、神のみこころを行う者は永遠に生き続けます。
1ヨハネ2:17、箴言19:21

6

パウロの鎖

- 鎖につながれていたパウロは、それでもできることをして神に仕えた。
- 体にも鎖「とげ」があった。取り除かれるように何度も祈った。
- しかし主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。わたしの力は弱さのうちに完全に現れるからである」と言われました。2コリント12:9
- 大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。私が弱い時にこそ、私は強いからです。12:9-10

7

パウロの鎖

- パウロが鎖につながれていた時はもっと充実した時？パウロの働きの中で最も影響力のあるもの？聖書に残されたパウロの13通の手紙。
- ローマで鎖につながれていながら、パウロは私たちの聖書の中にある4通の手紙エペソ、ピリピ、コロサイ、ピレモン(「獄中書簡」)を書いた。

8

パウロの鎖

- パウロがつながれていた鉄の鎖よりも、強力な鎖？神の愛、それに応える神への愛。
 - － というのは、キリストの愛が私たちを捕らえているからです。2コリント5:14
 - － なぜなら、キリストの愛がわたしたちに強く迫っているからである。(口語)
 - － なぜなら、キリストの愛がわたしたちを駆り立てているからです。(新共同訳)
- 私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が、この世に生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。ガラテヤ2:20

9

使徒29章

- 「使徒の働き」は、パウロのことでも、ペテロのことでもなく、主イエスキリストのこと。使1:1
- 「使徒の働き」はこのように終わるが、主の働きは今も続いている。マタイ28:20
- 先週の学び(エペソの祈り)、私たちの内なる人にも働いておられる！
- 私たち(教会)は、主の恵みと導きにより、主と共にどんな困難も乗り越えて行く。

10

使徒29章

- 教会も、神のわざ。救いも、クリスチャン生活も神のわざ。伝道(宣教)も神のわざ。主の働きは私たちの中で今も続いている。
- 「使徒の働き」はイエス・キリストの働き、聖霊の働きであり、主が再び来られるまでは完結しない。一人一人の人生が、日々の生活が神のドラマ。神と一緒に書き続けましょう。
- 人生(クリスチャン生活)は神といっしょの共同作業。

11